

中津川市林業振興ビジョン(案)の意見募集結果に対する市の考え方について

ご意見と市の考え方(回答)

No	意見内容(要約)	市の考え方(回答)
1	ウッドショックが発生し、林業・木材業界が激変していることを考慮して策定すべき。	ウッドショックの対応として、国産材の安定供給が求められています。それには、山側における間伐を主とする木材生産、木材加工、木材流通等の体制整備や連携、それらの従事者の確保と後継者育成等が必要です。このようなことを考慮し策定しています。
2	ビジョンは5年ごとに見直すこととしているが、ウッドショックの環境下では2年ごとの見直しが相応しい。	ウッドショックのみならず社会・経済情勢の変化に柔軟に対応する必要がある場合は、見直しを行います。
3	時代の潮流に、国の施策の木材使用率アップを記載すべき。	公共建築物等木材利用促進法が改正され、木材利用促進が公共建築物から建築物一般に拡大されました。これにより「ウッド・チェンジ」がさらに推進されています。このことをP5の「森林・林業行政の動き」の「国」の項に記載しています。
4	木材単価が現状にそぐわない。	市の林業の現状における統計数値は、主に最新の令和元年度岐阜県森林・林業統計書を引用していますが、木材単価はウッドショックによる価格上昇を表現するため、あえてR3までの数字を記載しています。
5	当たり前的事しか記載されていない。市の独自施策が記載されていてもよい。	国や県の施策は、反映させる必要があり、明記しました。 一方、当市の独自施策も記載しています。例えば、当市は、「東濃桧」の産地であり、それを加工利用する木材産業も盛んであるため、製材業や「東濃桧」を使用した住宅産業への支援策です。また、当市特有の豊かな森林環境を活用した森林サービス産業の創出や、当市と岐阜県立森林文化アカデミーと連携した人材育成等の取組等です。
6	生物多様性の森林づくりのため、人工林の広葉樹林化、自然林維持の補助事業の創設、森林地域における開発行為の規制が必要。	森林配置計画により環境保全林や生活保全林に位置づけられた人工林は、適期の間伐を繰り返し、天然力を活用した更新などにより、広葉樹林や針広混交林に誘導します。 また、自然林維持の補助事業の創設については、今後検討します。 森林地域における開発行為の規制は、保安林制度、林地開発制度、伐採及び伐採後の造林の届出、その他各種開発関係法令に基づき適正に実施します。
7	人工林の適切な管理は所有者自身自身の責務ではあるが、私有	森林所有者に対し森林経営管理の必要性等の普及啓発に努めますが、個人所有の人工林で所有者自らが経営管理を

	林の多くは手入れ困難な状態である。所有者の森林を守り育てるという意識はどのように醸成するのか。	実施できない場合は、森林経営管理制度を最大限活用し市が整備を進めます。
8	建築物木材利用促進協定の締結について、行程や締結相手等を明示すべき。	ビジョンはあくまで政策の方針を示すものであり詳細事項は記載しません。 建築物木材利用促進協定は、建築物における木材利用を促進するために創設されました。建築主となる事業者等は、建築物における木材利用の構想を実現するため、国又は地方公共団体と本協定を締結することができます。また、本協定に林業・木材産業事業者や建設業者等も加え、地域材の利用促進や川上から川下が連携した木材の安定的な供給体制の構築にも活用可能です。
9	製材業の支援における市産原木の利用を支援の具体案は何か。	中津川市産材製材促進事業にて、市産材を購入した市内製材業者に対し補助を行っています。
10	市内の製材工場の協力体制の構築は市が主導するのか。	大規模な需要に対応するため、協力体制の構築が不可欠と考えます。事業者自ら協力体制を構築するのが望ましいですが、必要に応じ行政の誘導も検討します。
11	木造住宅を建築する市民、企業の森づくり活動に参加する社員に対し特典を創設してもよい。	市産材を使用した木造住宅建築には、補助事業が活用可能です。 企業の森づくり活動へ参加する社員は、ボランティア活動による充足感、豊かな自然の中で作業することによる爽快感、地元住民と協力して作業することによる連帯感等が得られ、また美味しい地元料理等を味わえる等の特典があります。
12	蛭川地区で活動しているJTの森づくりについて、地元はメリットを感じていない。森づくりの意義が市民と共有されていないのではないかと。	蛭川地域はJTの森づくり活動に協力していると認識していますが、今後より一層、市民に対し、森林関係行事や森林教室の開催、広報誌の活用により、森林の役割や保全の必要性を普及啓発していきます。
13	委員会等を組織しビジョンの内容等を検討しているのなら、委員名簿等を最終頁に記載すべき。	中津川市農林政策審議会を設置し、意見聴取、内容検討等を実施していますので、委員名簿や経緯等を巻末に記載します。